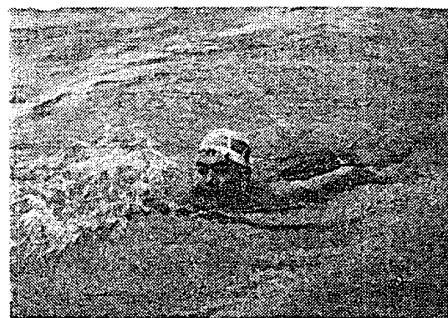


【6】 中学部の生徒に見られた「からだづくり」の成果

「やる気のある、自由に使いこなせる、がんばれるからだ」、我々はこのからだづくりに「生活単元学習」「運動」「健康管理」の3つの立場から取り組んできた。このからだが生きて働く力としてどう表われてくるか、表われ方や表われるまでのスタンスは個人によって異なり、評価もなかなか難しい。しかし、次に示す2事例は、同じ時期、同じ課題で、めざすからだを背景に表われた子どもたちのすばらしい姿であり、一昨年から力を入れてきたからだづくりの一つの成果として捉えたい。

(1) プール学習に表われた成果 (H. 2. 7~9)

「無理のない楽しい水泳指導」、これが中学部の水泳指導の方針である。今年、この楽しさの中に子どもたちのがんばる気、やる気が加わり、体のたくましさを加え、一昨年から徐々に蓄積してきた「めざすからだ」が、形となって花開く思いがした。



① クロールで40m泳げ出したM男(3年)

M男は息つきができず、面かぶりで5mしか泳げなかった。上腕が未分化で動きがぎこちない上に、緊張すると筋緊張を起したり、身体意識に混乱をおこしたりするため水泳指導はなかなか困難であった。このM男が指導者の声かけに筋緊張を起こしたり、身体意識に混乱を起こし、ぎこちない泳ぎをしながらも、今年は、何度も何度も素直に挑戦し、とうとう息つきとクロール泳法を体得し、プール納めでは40m泳ぐことができた。

② ローリングも少なくなり、60m泳げだしたR男(2年)

R男は脳性小児マヒの後遺症でまひが右手足にある。もともとがんびり屋であったが、83頁に示すように週1~2回の機能訓練を受け、足のけりやふんばる力、腰の力が向上したのと、持ち前のがんびりで、ローリングをほとんどしないで60m泳ぎ切ることができた。

③ 頭まで水につけられだしたT子(3年)



T子は、7~8歳の発達を示し、いろいろな事をやりとげたり思考する事ができる。半面とても慎重で、水に対する強い恐怖心があり、頭はもちろん、顔を水につける事等全くなかった。今年度は「野外炊飯」での道具作りや調理への取り組みを始め「サッカー」でのゴールキーパーとしての積極的な姿勢に一学期からやる気が感じられた。この気持と担任との信頼関係の高まりの中で、臨海学校でのちょっとしたきっかけで水に顔がつけられだし、夏季休業中のプール学習では約5分間の葛藤の末、とうとう水の中に飛び込む事ができた。その葛藤する姿の中に2年間蓄積してきた、心や態度を含めたから

だの充実を感じ取る事ができた。

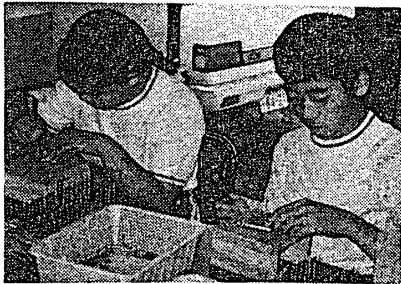
④ 考察

- ・限界に挑戦してみようと、クロールで130m泳ぎ切ったY子・N子（2年）
- ・プールサイドまで泳ぎ切ってタッチする喜びが分かり、何度も何度も挑戦して、プールサイドまでの2～3呼吸をふんばり、8m泳げだしたO子（3年）
- ・途中で止めたりせず、時間いっぱいくり返し練習できだしたS男（2年）H男（3年）

以上9名の例にも見られるように水泳では、やや挑戦に力点を置いたAグループ、Bグループの子どもたちに大きく変容が見られた。変容は技能や距離で表現されているが、むしろ「意欲、やる気、自律心、たくましさ」の変容として、からだづくりの成果を感じた。

(2) 「さざなみ作業所」での仕事への取り組みに見られた成果（H. 2. 7～8）

中学部では毎年、生活リズムや働く姿勢の保持の目的で、「さざなみ作業所」（本校の保護者と教官で作った作業所）に夏季休業中の数日間、任意に実習する事を奨励している。

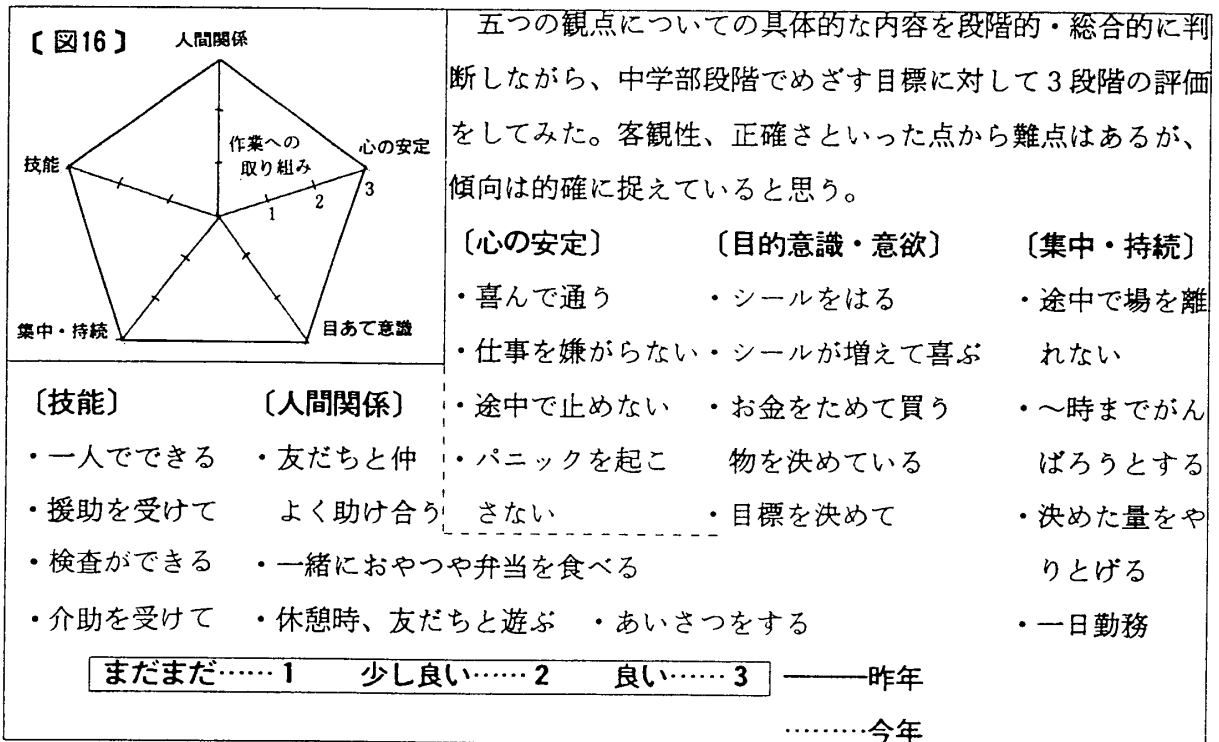


100こ作ってシールをはろう!!

原則として保護者同伴であり、学部教官も作業に参加するが、例年、保護者や教官は遠まきの観察を原則にしている。

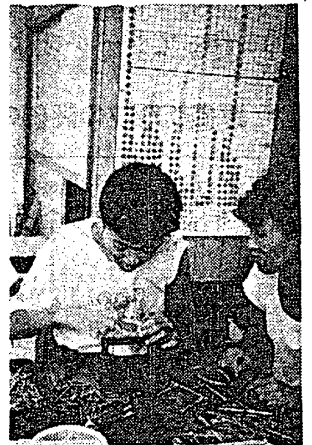
この作業所への参加の姿勢、作業への取り組み、作業量等に今年はいろいろ変容を見る事ができた。この事は山里一夫所長の昨年と比較した文章表現による評価にもはっきり表われているが、それを含めた取り組みの様子を何とか可視的に表現できないかと試みたのが次のグラフである。そのグラフと併せながらその変容を述べたい

① 評価グラフの評価の観点



② 変容の様子 (昨年8月との比較)

<p>【図17】</p>	<p>A子 (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年はほとんど仕事に参加せず、参加してもすぐ止めた。 ・今年は、午後はかなりペースが落ちたものの、午前・午後の15分の休憩のみで、母親と一緒に作業をした。 ・家庭にも道具を持ち帰って母親と取り組み、夏季休業中に1300円分(昨年は100円分)の作業をこなした。
<p>【図18】</p>	<p>U男 (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は作業所で弁当、おやつ等食べられず、よくすねていた。 ・今年は作業は勿論、おやつ、食事共、皆と同じペースでできた。今回はお金を貰ったらファミコンを買う目的があり、シールをはる毎にそれを言っていた。作業態度は昨年も良かったが、今年は更に集中して作業ができ、3800円分の仕事をこなした。
<p>【図19】</p>	<p>R男 (2年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は作業所への関心はほとんどなく、一日しか参加せず。 ・今年は初め3回は親子での参加だったが、4回目からは約2kmの道程を一人、自転車で通って来、2000円分の仕事をこなした。 ・作業に取りかかったら黙々とやり遂げる点では昨年と変わらないが、材料や道具の準備等、段取りも少しずつできた。
<p>【図20】</p>	<p>T男 (3年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年はよくパニックを起こし、途中で帰宅した。また、常同行動、集中力の不足のため、常に声かけを要した。今年は小さな不機嫌はあったが、母親の小声の「ハイ」という指示で作業が続けられた。
<p>【図21】</p>	<p>E子 (2年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年も母親とよく作業所へ通ったがほとんど本を見て遊んでいた。今年は機械を使った特定の作業に集中でき、休憩時間も取組んだり、家庭でもがんばり4500円分の仕事をした。



③ 考察

右に載せたのは山里一夫所長の先生方へ宛てた便りの一部である。我々が「即効的でなくて良い。いつかはこんな力になって一人ひとりを支えて欲しい」とめざしてきたからだの支えによって、子どもたちが所長にこのような印象を与える取り組みができた事は大きな成果と捉えた

どの子も一年間の進歩は可憐いと思った。「読み書き・ソバ」も大切だが「働く」と「遊ぶ」とか体を動かすことがより大切だということも先生にも保護者にもよく分っての一年間の成果をみる思いです。文字通り「生きて働く力」が身につけてきたという感じですね。まだまだ「働く」という段階ではない子どもたちも、働く雰囲気の中で遊んだり学習することで「働く」ということを身近に「やること」は大切でしょうね。もし「だからと言って、仕事はいいものは人間でいよう」とか考えは母親ですね。(後略)

い。とくにA子、T男、E子は「重い子どもたち」と言われる、中学部の年齢でも発達が2～3才の子どもたちである。「さざなみ作業所」での成果は、水泳の成果とは逆に、この子たちに多く表われた。この陰には、機会を作っては子どもを作業所に連れて行き、一緒に作業に取り組み続けておられるお母さん方の努力がある事を忘れてはならないが、他の子どもたちにも多く変容が見られている事とも併せ考えて、からだづくりの一つの成果と捉えたい。

(3) 2学期の生活の中に表われた成果 (H 2. 10)

からだづくりの成果は個人によって、色々な場面で、色々な形で表われる。36頁の事例で出脇は「服装へのこだわりがとれていく過程」に成果を捉え、40頁の事例で河田は「脚光を浴びにくい牛の役にも真剣に取り組む姿」を成果として捉えている。このような成果は共同研究、個人事例の中にたくさん扱われている。この10月、実態調査の再評価をする作業と兼ねて、17名の子どもたちの4月から大きく変容した事実を集めてみた。次に示すのはその一例である。



くわの使い方も上手になって

- ・一つの事に最後までじっくり取り組めだした。(Y子)
(のこで切る、名前の練習、カッティング、農園作業等)
- ・名前が読める程度に一人で書けだした。(Y子、K子)
- ・トイレに一人で入り、排尿してきだした。(E子)
- ・リュウマチの持病にめげず、自分なりに時間いっぱい動き、頑張るようになった。(R子)
- ・友だちへの語りかけやさそいかけ等、関わりを楽しむようになった。友だちをかばったりする。(U子)
- ・注視ができだし、指示の聞き取りや模倣が大分できだした。小さなボタンが止められだした。(T男)
- ・視写の力が向上。ひらがながゆっくりだが読めだした。ことばがかなりはっきりしてきた。(U男、S男)

(4) 諸テストに見られる変容 (H. 2. 10)

① MEPA及びからだの輪郭表に於ける変容

60頁の図7のY子のプロフィール及び61頁の図9のY子やA子の変容に見られるように重い子どもを除くほとんどの子どもに2～5項目の変容が見られる。右の表に示すのはその一例である。重い子どもについては、生活場面で扱えられる小さな変容が得点にまで中々結びつかないためテスト上には変容として表われていないが、上への伸びよりも横へのふくらみとして、その蓄積を重視したい。

② MSTBに於ける変容

他のテストが全て観察によるものであるのに対してこのテストは、タイム、距離、回数といった数値でその変容が見られる。60頁の図8に示すU男、のプロフィールに代表されるように、テストを受けた全員にほとんどの項目で変容がみられる。4月当初、被検者も検査者も不慣れであったため、結果が低く評価されたきらいもあるが、テストを受ける子どもたちのやる気、がんばり、

- ・タオルや靴下を手で洗う
- ・掃除機を使う
- ・針に糸をとおす
- ・粘土でひもを作る
- ・簡単な物にアイロンをかける
- ・上着をひとりで着る
- ・肥料袋を運ぶ
- ・短なわで両足とびをする
- ・ボールをけりながら走る
- ・ミシンで直線ぬいをする
- ・経験した事を他の子に話す
- ・友だちといっしょにお盆の上に物を乗せて運べる

集中力が4月とはかなり変わってきている事を実感し、この事を一つの成果として捉えるならば、テストの変容は体のみならず心を含めた変容としても捉える事ができるのではないかと中学部では結論づけた。いずれにしても大きく変容が捉えられる。

③ 意欲、態度、段階別教育内容達成評価に於ける変容

右の表は、61頁に示した、意欲・態度の調査を10月に再実施し、特に変わったと思われる姿を例記したものの一部である。我々のめざしている方向の姿がいろいろな形で表われている。①、②で述べたテスト結果に見られる身体諸機能の向上と、この意欲的姿勢の相乗作用によって、段階別教育内容の達成評価に於いても62頁の図11のT子、M子、A子の例に黒ぬり以示すように少しずつではあるが広がりを見せている。

・嫌でも声かけでがんばった。・良い悪いの判断が
できだし、衝動的な行動が少なくなった。
・友だちの指示が素直に聞けた。・少しの声か
けで立ち直れた。すねる回数も少なくなった。
・自律的にがんばる姿が多くなった。
・日記の中に思いや要求を書きだした。

【7】 本年度の取り組みの反省と今後の課題

リズム・サーキットの組み立て直しを含め、「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」をどう実現していくかについて、1時間1時間の授業に視点を当て、みんなで検討し合ったり、子どもの見方や捉え方を話し合う1年だった。ふり返ってみると、今迄、指導の原則として中学部が大切にしてきた事を実践するにすぎなかった気もする。しかし、貴重な実践を積み重ねた1年だったと思う。

しかし、まだまだ課題は多い。次年度はリズム・サーキットを含め授業づくりを継続する中で、更に、次の点に目を向けたい。

- (1) どの子にも楽しんで取り組める状況の作れる教材・教具・補助具等の工夫
- (2) 単元や題材の選定及び学習内容の発展や積み上げをふまえた年間指導計画の見直し、改訂
- (3) 伸びていく子どもたちをどう捉えるか。通知表を含めた評価の方法の検討

何をするにも教師間のチーム・ワークが大切である。この事を大事にしながら、からだづくりが発達と障害に応じた教育にとって重要な働きかけである事を実践を通し、実証していきたい。

◎尚、文中の子どもたちの名前はすべて仮称であり、その発達と併せ持つ障害は次の通りである。

	発達の程度	障 害		発達の程度	障 害		発達の程度	障 害
K男	2.5～3.0歳	ダウン症	U子	5.5～6.5歳	自閉的傾向	T男	2.5～3.0歳	自閉的傾向
Y子	4.5～5.5歳	情緒不安定	R子	4.0～5.0歳	ダウン症	A子	2.0～3.0歳	てんかん
M子	6.0～7.0歳	情緒不安定	E子	3.0～4.0歳	言語障害	O子	6.0～7.0歳	自閉的傾向
S男	7.0～8.0歳	言語障害	M男	7.0～8.0歳	単純精薄	K子	2.0～3.0歳	てんかん
R男	7.0～8.0歳	CP後遺症	U男	5.0～6.0歳	ダウン症	T子	7.0～8.0歳	場面かん黙
N子	5.5～6.5歳	自閉的傾向	H男	6.0～7.0歳	情緒障害			